

第二地銀協地銀の平成 27 年度決算の概要について

〔平成 28 年 6 月 16 日〕
一般社団法人 第二地方銀行協会

会員行の平成 27 年度決算（単体）の概要は以下のとおり。

（注）計数は平成 28 年 3 月末時点の会員行 41 行ベース（特記ある場合を除く）。

1. 損益概況

会員行の平成 27 年度決算は、業務純益、経常利益および当期純利益のいずれも減益となった。

業務純益は、資金利益および役務取引等利益の減少、国債等債券関係益の減少等により、2,678 億円と前年度比△218 億円、△7.5%の減益となった。

経常利益は、株式等関係益が増加したものの、業務純益の減益を受け、2,885 億円と同△186 億円、△6.1%の減益となった。

当期純利益は、1,923 億円と同△142 億円、△6.9%の減益となった。

2. 業務純益の状況

(1) 資金利益（8,573 億円、前年度比△157 億円、△1.8%）

資金利益は、前年度比△157 億円、△1.8%減少して、8,573 億円となった。

この内訳をみると、預貸金収支は、貸出金（平残）が増加したものの、預貸金粗利鞘の縮小により、同△188 億円、△2.7%減少して、6,725 億円となった。

また、有価証券利息配当金は、同+38 億円、+2.1%増加して、1,859 億円となった。

(2) 役務取引等利益（833 億円、同△39 億円、△4.5%）

役務取引等利益は、投信窓販業務手数料の減少等により、同△39 億円、△4.5%減少して、833 億円となった。

(3) その他業務利益（271 億円、同△129 億円、△32.3%）

その他業務利益は、国債等債券関係益の減少等により、同△129 億円、△32.3%減少して、271 億円となった。

(4) 経費（7,095 億円、同△21 億円、△0.3%）

経費は、物件費の減少により、同△21 億円、△0.3%減少して、7,095 億円となった。

3. 経常利益および当期純利益の状況

経常利益は、臨時損益が株式等関係益の増加により増益となったものの、業務純益の減益を受け、2,885億円と同△186億円、△6.1%の減益となり、当期純利益は、1,923億円と同△142億円、△6.9%の減益となった。

4. 不良債権処理額（与信関係費用）の状況

不良債権処理額（与信関係費用）は、前年度比+12億円、+7.3%増加して、177億円となった。

また、金融再生法開示債権（破産更生等債権、危険債権、要管理債権の合計）は、前年度末比△1,241億円、△9.3%減少して、1兆2,084億円となった。開示債権比率は、同△0.35%ポイント低下し、2.42%となった。

5. 単体自己資本比率（国内基準40行ベース）

単体自己資本比率は、リスク・アセットの増加により、前年度末比△0.22%ポイント低下し、9.70%となった。

6. 預金および貸出金（末残）

(1) 預金（64兆2,286億円）

預金（末残）は、前年度末比+9,716億円、+1.5%増加して、64兆2,286億円となった。預金者別にみると、要求払預金を中心に一般法人預金および個人預金はともに増加した。

(2) 貸出金（49兆2,129億円）

貸出金（末残）は、前年度末比+1兆7,134億円、+3.6%増加して、49兆2,129億円となった。

7. 平成28年度通期業績予想（業績予想を公表している40行ベース）

平成28年度通期業績については、経常利益は増益予想が2行、減益予想が38行、当期純利益は増益予想が5行、減益予想が35行である。

以 上